二〇一八年度　大阪府公立高校入試問題（C問題）

五〇分
九〇点

（注）答えの字数が指定されている問題は、句読点や「　」などの符号も一字に数えなさい。

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私は芸術の存在理由を、一般に考えられているように個人の内面の表現のためにあるより、①人間理解あるいは人間関係の創造のためにあると思っています。われわれが何かを表現し、それを公にする場合、他者あるいは第三者というものを前提としない活動の持続も、専門的な行為の成立もないからです。

ではこの人間関係の創造とは、何であるのか。それはある人間がどういう関係や状況に置かれているのか、どういう可能性をもっているのか、あるいはどういう感受性をもっているのかをまず明らかにすることです。そしてそこからさらに発展して、いったいこの人間といわれるものは何なのか、そういうレベルでの問いかけを多くの人々と共有することです。つまり、ある表現行為を契機にして他人と共に人間について考え、想像することです。そういう目的で芸術行為の存在は貴重だと私は考えています。

たとえばベートーヴェンの音楽を聴いて、われわれは人間を想像し、人間を理解しようとすることができます。これは絵画にも同様に言えます。しかし、人によっては「音楽とは音ではないか」「絵画とは色ではないか」「演劇のように生身の人間が出てこない」という人がいるかもしれません。そして「なぜそれが人間について想像させるのか」と疑問をもつ人もいるでしょう。

私が言いたいことは、それが創られた音であり色であるということです。われわれが日常では感じられない音であり色なのです。にもかかわらず、というより［A］と言うべきでしょうが、われわれは思わずそれに注意を集中させられてしまうことがあります。これはいったい何なのかと。また、そうした音や色を創りだすために自分自身の全エネルギーを捧（ささ）げる人間とはいったい何なのかと。

音楽でも絵画でも文学でも、さらには演劇でも、すべて人間が創りだしたものです。そうした人間が創造したものを通して、われわれは日常で慣れ親しんだ考え方や見方とはちがったように人間を想像し、またそのことによって人間関係について考えることがあるのです。

ですから、人間理解というのは、人間を賛美したり、現在ある人間を肯定することだけを意味しません。むしろ人間とは自然の一部ではないかとか、いまの人間の存在の仕方はよくないのではないかとか、現在の状態を批判的にみる人間理解もあるわけです。あるいは人間とはこういうものだというような、われわれが自明のものと考えてきた人間というものの概念や感受性を変更したり、修正することを迫られる場合もあるでしょう。

芸術がある個人の内面の表現であるとか、個人の内面の叫びであるとか、そういった近代芸術観というものはヨーロッパから発生してきたものですが、われわれが教育された芸術への接し方も、そうした近代芸術観の影響を強く受けたものです。もちろん、私はそうした考え方を否定するつもりはありません。たとえそれが仮B説だとしても、個人にはそれぞれに独自な内面が在るという人間への見方を通して、人間をとらえることは、現代の日本にもしっかりと定着していますし、コミュニケーションを成立させる場合にたいへん便利であることは事実なのです。しかし芸術表現を考える場合、これとはちょっと異なる視点から、ものごとを発想していかなければいけないのではないでしょうか。われわれ人間には、内面という言葉が与える印象ほどには自立し完結した独自な世界などはないのではないかと。

なぜなら、ある表現行為なり作品を自分以外の人間にわざわざ示すということは、すでに他人との関係を前提として、その上に成立した行為だと見なさなければいけないからです。それが金銭を目的にした行為であろうと無償のそれであろうと同じです。個人の内面の表現のようにして発表された作品も、じつは［　②　］ということではないでしょうか。

（鈴木忠志「演劇とは何か」より）

1　次のうち、本文中の［A］に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　そればかりでなく　　イ　それはさておき　　ウ　それだからこそ　　エ　それでなければ

ア	イ	ウ	エ

2　B説とあるが、次のア～エの傍線を付けたカタカナを漢字になおしたとき、「説」と部首が同じになるものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　沖縄ショ島の地図　　イ　セイ密な機械
ウ　経済指ヒョウの発表　　エ　人権の保ショウ

ア	イ	ウ	エ

3　①人間理解とあるが、本文中で筆者は、どのような人間理解の仕方があると述べているか。その内容についてまとめた次の文の□に入る内容を、本文中のことばを使って**七十五字程度**で書きなさい。

□という人間理解の仕方がある。

4　次のうち、本文中の ② に入れるのに最も適していることばはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　個人のためのものではなく他人を存在させるためのものにすぎない
イ　他人には示すことができず個人の中で完結してしまうものにすぎない
ウ　他人に見せることによって初めて内面の表現と呼ばれうるにすぎない
エ　個人の独自な内面を認めることで芸術作品として成立しうるにすぎない

ア　イ　ウ　エ

5　次のうち、本文中で述べられていることがらと内容の合うものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　われわれの芸術への接し方に強く影響を与えているヨーロッパの近代芸術観は、現代の日本にもしっかりと定着しているので、芸術の存在理由は個人の内面の表現にはないと一般に考えられている。
イ　音楽や絵画、文学、演劇はすべて人間が創造したものであり、それらをきっかけにして、日常とはちがった見方で人間について考え、想像し、それを他人と共有するという点に芸術の存在理由がある。
ウ　近代芸術観とは、芸術はある個人の内面の叫びであるとする考え方であり、その考え方に基づいて人間をとらえることによって、ものごとを少し異なる視点から発想していくことが可能になる。
エ　芸術表現を考える場合、日常で慣れ親しんだ考え方や見方とは少し異なる視点からものごとを発想していくことは、コミュニケーションを成立させるときにたいへん便利な考え方である。

ア　イ　ウ　エ

二

次の【漢文】と、その【書き下し文】を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、設問の都合で返り点を省いたところがある。

【漢文】

孔子曰(いはク)、「吾(われ)①有(リ)所(レ)恥(ヅル)、有(リ)所(レ)鄙(いやシトスル)、[②]。夫(それ)幼(えうニシテ)而不(ず)能(あたハ)強(つとムル)学(ヲ)、老(イテ)而無(キハ)以(もつテ)教(フル)、吾恥(ヅ)之(これヲ)。去(リテ)其(その)郷(ヲ)、事(つかヘテ)君(きみニ)而達(たつシ)、卒(にはカニ)遇(あヒテ)故人(ニ)、③曽(かつテ)無(キハ)旧言、吾鄙(シトス)之(ヲ)。与(と)小(せう)人(じん)処(をリテ)、而不(ざルハ)能(ハ)親(シム)賢(ヲ)、吾殆(あやフシトスト)之(ヲ)。」

【書き下し文】

孔子曰く、「吾恥づる所有り、鄙しとする所有り、[　　　]。夫れ(そもそも)幼にして学を強むる能はず(ことができず)、老いて以て教ふる無きは、吾之を恥づ。其の郷を去りて、君(君主)に事へて達し(栄達し)、卒かに故人に遇ひて、曽て(全然)旧言無きは、吾之を鄙しとす。小人と処りて、賢(賢人)を親しむ能はざるは、吾之を殆ふしとす。」と。

（注）旧言＝昔と変わらない言葉。
小人＝つまらない人物。

1　①有リレ所レ恥ヅル　とあるが、孔子が恥としている内容を【漢文】中から読み取って、現代のことばで**三十五字程度**で書きなさい。

2　【漢文】中の　②　に入れるのに最も適している漢文を、**漢字三字**で書きなさい。ただし、送りがな・返り点は**書かないこと**。

3　③曽テ無キハ旧言、吾鄙シトス之ヲ。に、【書き下し文】の読み方になるように返り点をつけなさい。

曽テ無キハ旧言、吾鄙シトス之ヲ。

4　「昔なじみの友人」という内容を表すことばは何か。最も適していることばを、【漢文】中から抜き出しなさい。ただし、送りがな・返り点は**書かないこと**。

三 次の(1)～(3)の文中の傍線を付けたカタカナを漢字になおし、解答欄の枠内に書きなさい。ただし、楷書(かいしょ)で、大きくていねいに書くこと。

(1) ヒタイに汗をかく。

(2) 自然をウヤマう心を育む。

(3) 歌曲をリンショウする。

(1)	(2)	(3)
	う	

四

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

如何に読むべきかという問題は何を読むべきかという問題と関連している。ひとは凡ての書物を同じ仕方で読むことはできないし、また同じ仕方で読んではならぬ。博く読むためには書物の種類に従って読み方を変えなければならない。そこに読書の技術があるのである。

何を読むべきかに就いては、もちろん、善いものを読まねばならず、悪いものを読んではならぬということは明らかである。悪い本を読むことはそのこと自身無益であるばかりでなく、悪い本を読んでいるうちには善いものと悪いものとを区別することができなくなってしまうというA危険がある。ひとはただ善いものを読むことによって善いものと悪いものとを見分ける眼を養うことができるのであって、その逆ではない。善い本は必ずしも読み易い本ではない。大きな、分厚な、むつかしい本であるからといって避くべきではなく、その方面で最も善い本を読むように努めなければならぬ。読書においても努力が大切であり、そして努力はつねに報いBられるのである。やさしい本、読者に媚びる本ばかりを読んでいては、①真の知識も教養も得ることができぬ。一度でその本が全部理解されなくても好い、ともかく善いものにぶっつかってゆくことが肝要である。もし一度で理解することができなければ、暫らく間をおいて再び読むようにするが好い。努力して読書する習慣を作ることが大切である。尤も、むつかしい本、大きな本がつねに善い本であるという風に誤解してはならぬ。それはペダンチックな人の㋐陥る誤解である。善い本は本質的に云ってすべて最も理解し易い本であるというのみでなく、初めから困難なしに読める本にも善い本は多いのである。そして読書においてぶっつかる困難を克服するためには系統的に読むことが大切である。読書も無秩序であっては益がなく順序を追うて読むようにしなければならぬ。先輩の意見を聞くことが有益であるのは何よりもこの点についてである。

一般に何が善い本かといえば、もちろん古典といわれるような書物である。古典は歴史の試練を経て生き残ってきたものであり、すでに価値の定まった本である。古典は決して旧くなることがなく、つねに新しく、つねに若々しいところを有している。②古典を読むことによってひとは書物の良否に対する鑑識眼を養うことができるのである。古典を愛しないような真の読書家はなく、古典についての教養を有しないような真の教養人はない。古典はつねに安心して読むことができ、幾度繰り返し読んでもつねに新たな利益を得ることのできるものである。かように価値の定まった本を読むように心掛けねばならぬところから、人々は屡々、古典というほどでなくても既にいく

らかの年数を経てなお読まれているような本を読むことにして、新刊書をすぐ手に取ることはやめねばならぬという風に忠告している。これは確かに有益な忠告である。ただ新刊書ばかり漁（あさ）るのは好くないことに相違ない。しかしながら読書における尚古（しょうこ）主義にもまた限界がある。アカデミズムに対してジャーナリズムには独自の意義があるように新刊書を読むということにもそれ自身の意義があるのである。時代の感覚に触れるために、また今日の問題が何処（どこ）にあるかを知るために、ひとは新刊書に接しなければならぬ。新しい感覚をもち新しい問題をもって対するのでなければ古典も生きてこないであろう。すべて過去が活（い）かされ、伝統が甦（よみがえ）ってくるのは現在からである。古典を㋑顧みないというのは固（もと）より悪いことであるが、新刊書を恐れるというのも正しくないことである。古典は安心して読むことができる本であるに対して、新刊書を読むことは一種の冒険である。しかし読書においても冒険するのでなければ得ることがないであろう。古典を偏愛して新刊書を嫌悪（けんお）する者において読書は単に趣味的になる傾向があり、一種のディレッタンティズムに陥り易い。しかしまた新刊書ばかり漁って古典を顧みない者も他の種類のディレッタンティズムに陥る危険がある。読書にも年齢があり、老人は古典的なものを好み、青年は新しいものを求めるというのが普通である。青年が新刊書を喜ぶということはその知識欲の旺盛を示すものであって㋒排斥すべきことではないが、しかしそこにはまた単なる好奇心の虜（とりこ）になる危険もあるのである。古典のために新刊書を軽蔑することなく、新刊書のために古典を忘却することのないようにするのが肝要である。

（三木　清「読書と人生」より）

（注）ペダンチック＝学者ぶること。自分の学識をひけらかす態度をいう。
尚古主義＝昔の文物・思想・制度などを模範とし、これにならおうとする考え方。
アカデミズム＝学問・芸術の伝統や権威を重んじ、正統性を守ろうとする立場。
ディレッタンティズム＝芸術や学問を趣味や道楽として愛好すること。

1　本文中の次の漢字の読み方を書きなさい。

㋐ 陥る　[　　　]る

㋑ 顧みない　[　　　]みない

㋒ 排斥　[　　　]

2　次のうち、A危険と熟語の構成が同じものはどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　寸暇　イ　締結　ウ　避難　エ　抑揚

ア　イ　ウ　エ

3　次のうち、本文中のBられると同じ意味で使われている助動詞を含む一文はどれか。最も適しているものを一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　けがをした友人の容体が案じられる。

イ　館長が会議のために戻ってこられる。

ウ　彼なら簡単に模型を組み立てられる。

エ　撮った写真を姉に上手だとほめられる。

ア　イ　ウ　エ

4　①真の知識も教養も得ることができぬとあるが、本文中で筆者は、真の知識や教養を得るためには、どのように読書をすることが大切だと述べているか。その内容についてまとめた次の文の［a］、［b］に入れるのに最も適しているひとつづきのことばを、それぞれ本文中から抜き出しなさい。ただし、［a］は**十字**、［b］は**六字**で抜き出すこと。

真の知識や教養を得るためには、［a］を読む努力をしなければならず、一度でその内容を理解できなくとも、繰り返し読み、読書をする習慣を作ることや、［b］ことが重要である。

a □□□□□□□□□□

b □□□□□□

5　②古典を読むことによってひとは書物の良否に対する鑑識眼を養うことができるとあるが、本文中で筆者は、書物の良否を判断する力を養う「古典」とはどのようなものだと述べているか。本文中のことばを使って**六十五字程度**で書きなさい。

（解答欄）

6　次のうち、本文中で述べられていることがらと内容の**合わないもの**はどれか。一つ選び、記号を○で囲みなさい。

ア　新刊書を読むことは、時代の感覚に触れ、今日の問題が何処にあるかを知るために必要であるが、新刊書ばかり漁って古典を気にかけないでいると、単なる好奇心の虜になる危険もある。

イ　古典を愛しないような真の読書家や古典に関する教養を有しないような真の教養人はいないが、古典を偏愛して新刊書を手に取ってはいけないと考えていると、読書は単に趣味的なものになる傾向がある。

ウ　新刊書を読むことは一種の冒険であるが、それでなければ得られないこともあり、新刊書を読むこと自身にも意義があるので、古典のために新刊書を軽蔑することがないようにしなければならない。

エ　古典を模範とする尚古主義にも限界があるが、古典を読んで獲得した新しい感覚や問題がなければ新刊書も生まれてこないので、新刊書のために古典を忘却しないようにすることが重要である。

ア　イ　ウ　エ

五

あなたは授業で、「インターネットと私たちの暮らし」というテーマで討論をすることになり、あなたの班は、「インターネットの使用には注意が必要だ」という意見を述べることになりました。そこで、この意見の説得力を高めるために、発表で提示する資料やデータを班で探すことにしました。あなたなら、どのようなことがわかる資料やデータがあればよいと考えますか。あなたの考えをあとの原稿用紙に**三百字以内**で書きなさい。ただし、次の条件1・2にしたがって書くこと。

条件1　あなたがあればよいと考える資料やデータは、どのようなことがわかるものなのかを具体的に書くこと。ただし、実在するものかどうかは問わない。

条件2　条件1で挙げた資料やデータと、あなたの班が述べる意見とが、どのように関連するのかを明確にすること。

・原稿用紙の正しい使い方にしたがって書くこと。
・題名や氏名は書かないで、本文から書き始めること。

100

300 200

二〇一八年度
大阪府公立高校入試問題（C問題）

一

解答

1、ウ　2、ア　3、現在ある人間を肯定することだけではなく、現在の状態を批判的にみることや、自明のものと考えてきた人間というものの概念や感受性を変更したり修正したりする（74字）（同意可）　4、ウ　5、イ

解説

1、芸術が「創られた音であり色であるということ」と、われわれが芸術に「注意を集中させられてしまうこと」との関係に着目し、「にもかかわらず」という逆の接続の仕方を考える。

2、部首は「言」。アは「諸」と書く。イは「精」と書いて、「米」が部首。ウは「標」と書いて、「木」が部首。エは「障」と書いて、「阝」が部首。

3、「人間関係の創造」について説明し、「人間が創造したものを通して…人間関係について考えることがある」と述べたことを受けて、「人間理解」の仕方を示している。「現在ある人間を肯定する」という仕方だけでなく、「現在の状態を批判的にみる」、あるいは「われわれが自明のものと…変更したり、修正する」といった仕方もあると述べている。

4、前の「ある表現行為なり作品…他人との関係を前提として、その上に成立した行為だと見なさなければいけない」に着目する。芸術は「表現」である以上、他人に見られることなくして成立しないと述べている。

5、本文は「芸術の存在理由」を述べた文章であり、「ある表現行為を契機にして他人と共に人間について考え、想像すること」を目的とした芸術行為は「貴重」であり、また、人間が創造した芸術を通して「日常で慣れ親しんだ…ちがったように人間を想像」し、人間関係について考えると述べている。

二

解答

1、若いころに学問にはげむことができず、年老いて人に教えることがないこと。（35字）（同意可）　2、有所殆

3、曽（かつテ）無（キハ）二旧言一、吾鄙（シトス）レ之（ヲ）。　4、故人

解説

1、「夫幼而…無以教」と言うことを指して、「吾恥之」としている。若いころの不勉強によって他者に教えるべき知恵も知識も持たない老人になったことを恥ずべきことだと述べている。

2、「有所恥」に対して「吾恥之」と説明し、「有所鄙」に対して「吾鄙之」と説明している。このことをふまえ、あとの「吾殆之」と対応する語を考える。

3、一字戻って読む場合には「レ点」を、二字以上戻って読む場合には「一・二点」を用いる。

4、故郷を意味する「其郷」ということばに着目し、「卒遇」の相手をおさえる。

口語訳

孔子先生がこうおっしゃった、「私が恥だと思うことがある。私が見苦しいと思うことがある。私が不安に思うことがある。そもそも若いころに学問にはげむことができず、年老いて人に教えることがないことは、私はこれを恥ずかしいことだと思う。故郷を去って、君主に仕えて栄達し、思いがけずに昔なじみの友人に出会って、全然昔と変わらない言葉を交わさないことは、私はこれを見苦しいことだと思う。つまらない人物と交わって、賢人と親しむことができないことは、私はこれを不安に思う。」と。

三

解答

(1) 額　(2) 敬(う)　(3) 輪唱

四

解答

1、㋐おちい(る)　㋑かえり(みない)　㋒はいせき　2、イ　3、エ　4、a、その方面で最も善い本　b、系統的に読む　5、歴史の試練を経て生き残ってきた、すでに価値の定まったものであり、つねに安心して読め、幾度読み返してもつねに新たな利益を得られるもの。(66字)(同意可)　6、エ

解説

2、同意の漢字の組み合わせである。アは、上の漢字が下の漢字を修飾している。ウは、上の漢字が動作を表し、下の漢字がその対象を表している。エは、反意の漢字の組み合わせ。

3、受け身の意味で使われている。アは自発、イは尊敬、ウは可能。

4、a、「善いものを読まねばならず、悪いものを読んではならぬ」と述べたあと、「善い本」を読むべきであることを繰り返し、「大きな、分厚な、むつかしい本」であっても避けずに、「…善い本を読むように努めなければならぬ」と述べていることに着目する。

b、その本を一度で理解できなければ、「暫らく間をおいて再び読むようにする」ことや、「努力して読書する習慣を作る」ことが「大切である」と述べ、さらに読書での困難を克服するために「大切」なことを挙げている。

5、「善い本」であるという「古典」の特徴として、「歴史の試練を経て…すでに価値の定まった本である」こと、「決して旧くなることがなく…つねに若々しいところを有している」こと、「つねに安心して読むことができ…新たな利益を得ることのできるものである」ことなどを挙げている。

6、最後の段落で、「新しい感覚」や「新しい問題」は「新刊書」から得られると述べているので、「古典を読んで獲得した新しい感覚や問題」は誤り。

五

解答

（例）インターネットの使用頻度と読書時間の相関関係を読み取れる数値データがあればよいと考える。インターネットに多くの時間を割いている人とそうでない人とでは、読書に使う時間にかなりの差があると考えられるので、このことを数値的に証明できるデータを示したいと思う。

私たちは、一冊の本を読み進めながら、その本が描く世界や書き手の思いについて深く考えるようになる。しかし、インターネットに多くの時間を割けば、こうした貴重な体験ができる読書の時間は削られることになる。このことを根拠にして、インターネットの使用に注意を促すために、先に挙げたデータによる数値的な裏付けが必要だと考える。（298字）